

京きょうの月つき（安藤残雨あんどうざんう）

解説

京都の夜に浮かぶ月の風情を詠じたもの。

待ちまち 得えたり 快晴かいせい 三五さんごの 夜よる

語釈

※三五さんご三と五の積から十五のこと。

十五夜。 ※嘯せう詩歌を口ずさむ。 ※旧都きゅうと昔の都。 京都のこと。

※清光せいこう清らかな光。

※寂寞せきぱくひっそりとしてさびしいさま。 ※玉盤ぎよくばん玉で飾って作った大皿やたらい。 ここでは月のことをいう。 ※金竜きんりゅう黄金の竜。

※洛水らくすい河川。

月つきを 賞しょうし 月つきに 嘯せうく 旧都きゅうとの 秋あき

清光せいこう 寂寞せきぱくとして 玉盤ぎよくばん 転てんず

通釈 待ちに待った快晴の十五夜。 その月を賞し、月の詩歌を口

ずさむ京都の秋。 玉の皿のような月は天上をめぐらせ、ひっそりと清らかな光を放ち、そして、その光は黄金の竜が流れているかのように、川に描き出されている。

影かげは 映うつる 金竜きんりゅう 洛水らくすいの 流ながれ